

会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成23年度 第3回 川西市都市計画審議会専門委員会 (川西市都市計画マスタープラン検討委員会)		
事務局 (担当課)	都市整備部 まちづくり推進室 都市計画課		
開催期日	平成24年2月16日(木)		
開催場所	川西市役所 4階 庁議室		
出席者	委員 (敬称略)	澤木・松村・水野・山本(信)・駒井・山本(眞)	
	関係人		
	事務局	竹田・芝・廣瀬・茨木・萩倉・前田・堀内・八尾・池田	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	0名
傍聴不可・一部不可 の場合はその理由			
会議次第	<p>議 題</p> <p>(1) 検討事項 都市計画マスタープラン検討案について 地域別構想 都市づくりの推進方策</p>		
会議結果	(1) 検討事項 別紙のとおり検討されました。		

第3回川西市都市計画マスタープラン検討委員会

日時：平成24年2月16日（木）19～21時

場所：川西市役所4F 庁議室

1. 地域別構想について

< 課題と優先順位について >

地域別構想で書かれている課題は、記述の順番が優先順位にはなっていない。課題には解決しやすいものとしにくいものがあり、何が大事でそうでないかは、課題によってかなり違うため、並べるのは非常に難しい。もう少し系統立てて並び替えるなど考えたい。

テーマの柱ごとに書くより、それぞれのゾーンの将来像を書いて、優先順位の高いものについて述べ、そのためにはこういった都市整備をしていくなどを示し、それぞれがどのテーマに関連するかということを示した方がわかりやすいかもしれない。

< 各ゾーンの違いについて >

各ゾーンの特徴や課題をしっかりと書いているにもかかわらず、方針の箇所の緑の帯のテーマが同じである。ざっと読む時に各ゾーン特有のポイントを緑の帯に書いた方が読みやすい。

各ゾーンの良い点悪い点、魅力となって伸ばしていきたい要素の部分とこれは解決していかなければいけないという部分をハッキリとわかるようにした方がよいのではないか。

< 地域間連携について >

地域間の話として、中部に住んでいると、買い物をしたいと思えばバスや能勢電鉄に乗って阪急百貨店に行ける。もうちょっといい物が買いたいと思えば、阪急電鉄に乗って梅田に行けば良い。今日は里山散歩でもしようと思えば、北部に行けば良い。ほとんど何でもできる。

川西市のメリットは単に住むだけではなく、いろいろなことを使いこなせるまちだと思う。それを出来る限り公共交通機関を使って、近隣の池田市や宝塚市なども自分のまちだと思って使っていけば良いのではないか。それができることが川西のメリットではないか。いろんな川西の顔があるのでその特性を活かして、住民のより豊かな暮らしの実現を図っていくことが可能である。

各地域の特性としてところどころ書いてあるが、地域別におけるそれぞれの特性を全体で使っていくとこんな風になるというような暮らしの部分がないので、見えにくい構造になっていると思う。地域間の連携などをもう少し前に出してから地域別構想を考えていく方がいいかもしれない。他の市町村でもそのあたりに関しては詳しく書かれていない。そこを川西の特性として、いろんな特徴を持った地域があるということで書けるのではないかと。

< その他 >

こういうことに関わることは面白いことだと一般市民が思えるような資料づくりを目指してほしい。「住んでみたいまち」、「行ってみたいまち」、「よそに誇れるまち」というような川西にするためには、何か目を引く物、パンチのきいたものが必要だと思う。

地域別構想で、「市民の取り組み内容」の箇所がもう少し読みやすくないだろうか。テーマごとに並べられているようだが、市民から見て取っ付きやすい内容にした方が良いのではと感じる。

市民の取り組み内容の箇所で、「こういうことが出来ますよ」と言われると押しつけられているような気がする。「実際にしていること」と「した方がいいこと」は分けた方がいいのではないかと。

「MM」、「モビリティ・マネジメント」は、分かりやすい表現に置き換えた方がよい。

「住民」と「市民」は、地権者なども入ってくる地区計画以外は「市民」で統一する。

「など」という書き方が多く、括りがあいまいになっている。「など」というのは一体どこのこと

を言っているのか。同じような頭を使っているのに、文章を読み進めていくと括りが変わってくる。

<北部ゾーンについて>

「里山」や「知明湖」「ダム」を、オートキャンプ場などで賑わえるようなものにしてはどうか。高齢者が多いが、65才以上でもパワフルなので、里山体験のリーダーなどで活用してはどうか。

<中部ゾーンについて>

多田神社もあるが、子育て世代が一番住みやすい所ではないか。そこで保育所整備などをすればもっと若い人たちが増えるのではないか。

<南部ゾーンについて>

加茂遺跡など、川西は多田神社だけではないと感じた。また、生活してきたパワフルさや面白さがたくさんあるのに、なぜ注目されないのか。多田神社や加茂遺跡などを巡るバスツアーのようなものを川西市がやっても良いのではないか。

南部ゾーンは公園がない。空き地は公園に、生産緑地は都市型の貸し農園、電車で来て農園をして帰るといった混在型にしてプラスに変えてはどうか。

南部は、公園が少ないなどのデメリットが多い地域なので、「防災」に主眼を置くべきではないか。南部ゾーンの方針において、「暮らしの要素が充実した川西」の箇所がいきなりMMの話になっている。真ん中のコアのにぎわいと住宅のイメージになると思うのでそのあたりも意識してほしい。それからいきなり「既成市街地」という表現はどうかと思う。また「栄根2丁目地内の土地区画整理事業」という言葉が唐突に出てくるので、これも主要課題も含めて整理した方が良いと思う。

産業に関しては工業や農業などもあるので、そういった視点を忘れないように。

南部の中小企業は発展または衰退のどちらなのか。地域では企業との連携も必要である。中小企業が地域の中で目指していく方向性についてはどうなのか。例えば、市がバックアップできる体制になっているのか、資金繰りが危なくなると倒産したらそれまでという成り行き任せなのか。

産業ビジョンが平成24年度で切れて、次のビジョンは総合計画と合わせて一本化していくと聞いているので、そちらでどの程度表現できるかというところである。

産業については、総計でも議論されているはずなので、都市計画側からサポートしていく、特色ある中小工場の土地を活かすような形で、まちづくりをしていくようになればいいと思う。

<地域の分け方について>

JR以南では集落と農地、工業が混在しているので、南部はJRで分かれている。

総合計画において、地域懇談会が小学校区単位の20数カ所で行われている。そこでは、地区単位でどんな問題があって、人口動向や世帯がどうなっているか、地域での活動について、こんな施設があってイベント等を行っているなどの情報を洗い出している。

トップダウンで地域分けをするのも一つの方法だが、ボトムアップで小学校区単位で立ち上げ、似たような課題を持っている小学校区であれば、それを一つにまとめてもいいと思う。

総合計画のワークショップでまとめられている資料に基づいて精査した方が、地域分けの意味も検討できるのではないか。

2. 推進方策について

<支援の仕組みなどについて>

P77の「市民等による都市づくりのイメージ」の箇所であるが、P79の「マスタープランの進行管理・見直し」の箇所まで、表の「実施段階」の下につけてもらいたいと感じた。準備・初動・計画・実施したあと、「見直し」までが「都市づくり」だと思っている。

推進方策については事務局だけの思いで書いているが、参画協働ということで、現在庁内で進めているところであり、摺り合わせによって内容が大きく変わる可能性があるので今後調整していく。P78 の右の縦のラインで「地区住民の取り組み」で「地区住民有志」とあるが、数名の発起人がまちづくりの活動を始めるため任意団体として発足し、「まちづくり協議会」に発展していくということで、神戸市の条例と同じような仕組みになっている。

神戸市の場合、市と協定を結ぶと情報公開され、開発行為が行われると地域に情報が行き、建築確認の審査が下りる前に調整できる。川西市の場合、まちづくり協議会に発展すれば、コンサルタントを派遣したりできる補助制度が適用される。

P77 で、初動期の活動の支援で3年間補助金が出る。

参画条例でも、補助制度を活用した長期的な地域活動として都市づくりを支援している。

来年度、地域職員や地域リーダーを養成する支援の予算を考えている。

これはコミュニティ政策のようなものなので、地区計画策定まで目指すのであれば、都市計画サイドからはこのような仕組みで応援するというような書き方をした方が良い。

<新しい都市づくりの推進のための取組みについて>

P76 で4点挙げられていて、最初の1, 2は明解に具体的な内容が書かれていて非常にイメージしやすい。3つ目の「エリアマネジメントの推進」とあるが、サラッと書かれているのでどう推進するのか、前の2つとはレベルが違う書き方である。もう一点は、4番目の「スキルの向上」と書かれている部分であるが、誰のスキルの向上なのかがわからない。

3つ目は地域分権の中で住民自治のことが書かれているが、地域力を上げていかなければ、行政の力だけではまわらないということ意識して掲げたものであり、具体的なことではない。

4つ目は市民を支援するというので、行政も会議に参加し議論を深めていく意図が含まれる。

エリアマネジメントを進めていくという姿勢はどこかにあった方が良い。

<協働について>

「コミュニティ」の話が全く出てこないが、「コミュニティ」の部分は、総合計画での書き方を見ながら調整していこうと考えている段階であり、一応意識している。

P76 にあるように、市が情報を発信し、何か動きがあればサポートし、地域でリーダーを育てていくのだろうが、もう少しわかるように書いた方が安心して第一歩が踏み出せるのではないかと。

<構成について>

P74 の「1 - 1 推進のための基本的な方策」は、全体にかかる基本的な方策なので、1 - 1 にも「協働」が必要と思う。「協働」を前面に出すなら1 - 1 と1 - 2 は逆の方が良いのではないかと。

市民としてはどこから手をつけてどうすればよいのか。もう少し具体的な動きを示唆するなど、モデルケース的なもので具体例を挙げるとしても良いのではないだろうか。

「市民の取組み内容」は、地域別構想に入れずに第3部に入れる方が良いのか、あるいは第3部と第2部を入れ替える方が良いのか。

体系立てた整理が必要。以前の案をベースにいろいろはめ込んでいっているような形で、まるでパッチワークのようである。もう少しスマートにすっきりさせたい。

泉佐野市の都市マスは3部が一番先に来る。川西市の市政を説明する前に、パンチの効かせ方としては順番を入れ替えてこれを持ってこることも良いのではないかと。

3. 本日配付資料の1 - 5について

資料の1 - 5の文章が、説教くさく感じる。やたら「大切です」という言葉が出てくるので、もう少し文章を考えてほしい。

4. めざすべき都市像について

川西市はツツノオトシゴのような形をしている。市の花は「りんどう」、「竜胆」と書く。九頭竜伝説からドラゴンランドもある。今年は辰年なので「龍」や「竜」のイメージを活かしてはどうか。インパクトはないが、左上の図は考え方としてはとてもわかりやすい。ベースとして「自然」と「まち」と「ひと」があって協働化して活性化することによって実がなり、それがまた地面に落ちて戻ってくる。概念としてもわかりやすいがどこでも使っている絵だと言ってしまえばそうなる。これについては、いくつか案をつくってから考える。

5. 新名神のインター周辺の土地利用について

中途半端なことをしてラブホテル街になるのはまずいので、それをコントロールすることが必要。基本的に国道173号のように道路沿いに店がある方がよい。今のままというわけにはいかないので、一定の商業施設は必要かも知れない。ただ大きな面積は必要ないと思う。

インター周辺に物流拠点があってもよいのではないかと。前回までは、インターを降りたら商業施設が少しあり、山を散策するイメージであった。そこを切り捨ててしまうのは、自然を残すということでもいいかも知れないが、別の切り口から見るとチャンスを逃すということにもなる。

沿道は西畦野からずっと調整区域であり、大きな流通センターとなると、地域の人たちが土地を売って賛同するだろうか。以前地元での話し合いでは、そのままにしておいてほしいといった意見が多かった。しかし、大きな集配業者が来ると、地域の雇用にもつながる。

20～30年して代替わりしてからでも良いと思う。さわってしまうと戻らないのでそのまま置いておくのも一つの考え方だと思う。そうすると沿道を調整区域からはずすという方法も考えられる。

6. 検討案の量的な構成バランスについて

バランスよりももっと組み立て方をしっかりしてほしい

1-4と1-5のあたりももっとコンパクトにした方がよい。現況の分析ももう少しスマートにした方がよい。不要な図がたくさんある。1部をスリムにして2部、3部を充実させる。

決してマイナスのイメージで削らずにできれば凝縮し、かつスリムにスマートにしてほしい。

7. 総括

いろいろな要素を盛り込もうとして、羅列的になっており、4つのテーマで無理矢理並べようとしている。ゾーンごとにどういう方向を目指すのか、P56にしっかり書いてあり、その特色をどういう方向に伸ばし肉付けていくか。それぞれの地域の人たちが地域別構想を見たときに、「自分たちのまちはこんなふうにしていこうと考えているのだ」ということを理解し共有し、その中で自分たちが出来ることや地域で組織化してやろうということが、見えるようになればよい。

条例の地区計画をつくっていく場合の事など、そのあたりが突出し過ぎているように感じるので、協働についてどのように書くかは総計にまかせて、都市マスはそれを受けて書き方の調整が必要で、ある。都市マスらしい推進方策の書き方をしていくべきではないかと思う。

市民協働を前面に出すのであれば、1-2のようなものは第1部の前に来て、これがあれば1-5はいらないのかもしれない。このあたりは全体の1～3部を通して考える。

意見にはなかったが、PDCAをどれくらいのスパンで点検などをしていくのか。進行管理のスケジュールが必要で、5年ごとなのか、毎年なのか、そのあたりも教えてもらいたい。

次回までは時間があくので、できるだけ早く資料案を示してもらって、事前に意見もいただきながら議論として集約できるものにしていきたい。